

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2190500302-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「Always Say Yes!」の基本方針のもと、あきらめず利用者様本人の意向をできる限り叶えられるよう、利用者様、ご家族様の心に寄り添い、全職員が一生懸命考え、柔軟な対応を心掛けている。 ・少しでも楽しく、笑顔で、「自由に暮らせる家」を目指している。 ・最期まで、安心して家(トリア吉野町)での生活を送って頂けるよう、看取り介護も行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>個人の意思を尊重し、あきらめないケアを目指している事業所である。管理者の強いリーダーシップのもと、理念を柱としたあきらめないケアを、日々のケアを通して皆と相談しながら取り組んでいる。職員の個別の事情に配慮し、働きやすい勤務体制を実施している。利用者の自己決定を尊重することで、看取り期において、入浴好きの方が気持ちよく入浴できたり、お酒が好きな方は一口でも口にできるようにした事例もみられている。家族とはLINEアプリやこまめな電話などで月に数回情報交換を行い、気軽に相談できる体制を整えている。職員間の申し送りの際は個人名を出さずに、お部屋の名前で行うことで、プライバシー保護に重要視している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切にし健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、利用者様一人一人にとって何がいいのか考え確認して業務を行なっている。	利用者の意思を尊重することの大切さを、管理者は日々のケアを通して職員に伝達している。理念を年の冒頭に職員と一緒に唱和して、全体会議にて改めて説明する機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響により、外出を全くしていない状況のため、日常的な交流はできていないも、敷地内で少し外の空気を吸う際に、通りかかる方へのあいさつをしている。	自治会に加入し、回覧板や広報で地域の状況を把握している。コロナ禍前は地域のおみこしが回ることもあった。近隣の高校や大学の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出等行っていないため、直接的な関わりを持っていない。前年度同様、高校・大学からの実習生を受け入れ、利用者様と近隣に住んでいる学生との間で、地元の話等に笑顔が増える機会を持てた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂き、その意見をもとにサービス向上を目指している。近年は、書面での開催となっているが、参加者の皆様からあたたかいご意見を多くいただき意見交換をすることで情報の共有ができています。	書面開催で実施。レクリエーションへの要望には、実習の学生と一緒にファッションショーを企画開催出来た。会議でのやりとりから、地域消防団の要援護者リストに、施設を入れてもらい、防災意識を高めるきっかけに繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。後見人制度の活用や、生活保護者の対応等の相談・助言を頂いている。	権利擁護が必要と思われる利用者について市へ相談し、会議に参加している。感染症対策についても、市と情報交換し必要物品を調達してもらうなど、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様一人一人の行動観察で可能な力を見守ること、必要な介助を行う事、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフへの勉強会も実施している。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を作成している。研修は安全対策委員会で実施されている。センサーマットに頼りすぎないケアを目指し、職員間で検討しケアを工夫している。議事録が確認できなかった。	身体拘束を実施していない場合も、研修を随時実施し、議事録を作成して全職員に周知されるように計画されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等をその時々で共有することでスタッフのストレス緩和に努め、虐待につながらないように心掛けている。また、利用者様のストレスへの観察も日々行なっている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様がいるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問等にも応対しながら理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送りにて職員に周知している。苦情や外部への発信が必要な時については、運営推進会議の場を活用し報告している。	LINEを活用し月に数回家族に様子を報告したり、電話や手紙を送ったりして、意見をその都度確認している。面会の希望には青空面会やリモート面会など工夫して面会できるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には統括や管理者も出席し、職員一人一人の意見を聴くよう努めている。また、普段より職員一人一人に声をかけコミュニケーションを図り意見交換をしている。毎月担当を決めレクリエーションを展開し、職員の考えに委ねている。	職員の事情に合わせて、勤務日や時間や就業形態を随時管理者と相談しながら対応している。腰痛防止のため、マンパワーを補充して対応している。管理者の強いリーダーシップのもと、職員は気軽に管理者に何でも相談でき、解決の方法を提示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給するなどその職員に応じて評価している。可能な範囲で、職員の働き方(休日等)に合わせて勤務の作成をするよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症の影響により、外部研修を控えている。今後リモート研修等検討していく。職員会議では、必要に応じて内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のリモートでの施設部会に参加し、同業者との交流や情報交換を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時ご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事（掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等）、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えられることはお願いをしている（買い物等）。また面会を可能な範囲で行ない、談話する機会を少しでも設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会がリモート面会のみとなっているが、ご家族と一緒にご友人が参加され再会を喜ばれている。	携帯電話の持ち込みは自由である。電話を利用し、ご家族へ本人の欲しいものや希望を伝え、随時差し入れをしてもらっている。友人の来訪にも対応し、青空面会などで交流が図れるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションと一緒にし利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、利用者様や職員の様子を気にして連絡をくださったり、他施設に変わられたご家族よりわからないこと等の問い合わせがあった際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。	入浴など1対1になる時間を大切にしてコミュニケーションを図っている。おやつや飲料を選択してもらい自己決定を支援している。会話が難しい方も、目線やしぐさを確認して傾聴しながら意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。また、介護記録のキーワード欄も活用し、日ごろからケアプランの内容を把握しながらケアできるように介護記録を記入している。	利用者、家族の希望を面会時や電話連絡により職員とケアマネージャーと一緒に確認している。日々の介護記録にケアプランのキーワードを記入し、毎日実施事項について共有している。介護職員とケアマネージャーが協働し、6か月毎に見直し、モニタリング、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容、病院受診や短時間の外出(現在は自粛中)など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響により、近隣ケアの行事が開催されておらず参加ができておらず。近所のコンビニエンスストアへ買い物に行くことを楽しみにされている利用者様もみえる。(現在は実施しておらず。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。	月2回の訪問診察を受ける方が多い。他科受診は看護師が同行し、医師との情報交換をしている。家族と一緒に受診同行することもある。かかりつけ歯科は往診を依頼したり、受診に同行したりして、受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も報告し、看護師の判断で適切に受診等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームでの情報を書面にてお伝えし、また、地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っている。また、面会に行った際に経過を確認する等病院関係者ともコミュニケーションを取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は、早めの家族連絡を心掛けている。入居契約時に、終末期の対応についても説明を行なう。また、必要に応じて終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努めている。	状態変化があれば、その都度、終末期に向けても医師より家族へ説明している。本人や家族の意向により、最期までお酒やお風呂を楽しむ利用者もいた。最期に家族が泊まり、随時面会できる配慮も行っている。管理者や看護師と一緒にケアに当たりながら、職員への心身のフォローも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会にて、お互い災害時は連絡を自治会長にとる体制が構築できた。スタッフ間で定期的な避難訓練(夜間も含む)や避難方法・手順の確認を行っている。今後、地域の方も交えた訓練実施を課題とする。備蓄も水分・食品も少しずつ備えている。	年に2回防災訓練を実施している。地域の要援護者リストに事業所を入れてもらえるように、自治会、消防団に依頼した。通報訓練では自治会長に連絡することを実施し、地域での防災意識向上に努めている。備蓄用品は各階ごとに保管している。	

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。また、日頃から一人一人にあった声掛けをするよう職員へ周知している。	1年に1回接遇研修を実施している。職員間で、利用者の個人名が他に知られないように、部屋の名前を使って申し送りを行っている。入浴等も本人の意向を確認しながら同性介助で羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。希望者に応じて出張理美容を依頼し利用したり、美容師免許を持ったスタッフがカット対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていたり分担任して一緒に行かない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。	利用者と一緒に盛り付けや台拭きを行っている。利用者の食べたい物を確認し、メニューに取り入れたり、テイクアウトで好みの物を用意したりする時もある。天気の良い日には外気浴も兼ねて外でおやつを食べ楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分量が少ない時は、こまめに声かけをし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていただき、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。立位困難な方でも、二人介助でトイレ介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を勧めている。	1ユニットに3つトイレを設置し、夜間もポータブルトイレを使用せずトイレで排泄できるように誘導している。尿便意に合わせて寝たきりの方も職員2名で便座に座って排泄できるように支援している。こまめな配慮で退院後に排泄の機能が回復できた方もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。また牛乳を飲んだり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をしながら安心して入浴していただける環境を作っている。	浴室はユニット毎に設置されている。寝たきりの方も機械浴で安心して入浴できる。基本は週2日であるが、要望に応じ、日にちや時間帯も柔軟に対応している。お湯は一人ずつ入れ替え、入浴剤を使用することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しずつ作っている。(現在はコロナウイルス感染症の影響により実施せず)ご家族が亡くなられた利用者様と職員で1泊旅行へ出かけたりもしている。(以前)	4月に花見で外出を実施。外出の要望は把握しているが、感染症対策のため実施ができていない状況である。	理念に基づき、個別の外出支援を得意とする事業所であった。そのため、感染症対策に配慮しながら、またいつでも再開できるような計画、準備を期待したい。

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡し、そこから支払っていただく。(現在は、実施しておらず)スタッフが代行で、買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。また定期的な換気を行いながら、外の空気を感ずることでコミュニケーションをとり季節への関心を持っていただいている。	こまめな換気を実施しながら、個別にひざ掛けやネックウォーマーを使用し、体感温度に対応している。新聞や雑誌をリビングに置き、自由に読むことができる。季節ごとに紙細工の作品をリビングに掲示し、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士と一緒に談話し過ごせる空間ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。	使用していた姫鏡台、写真や生花、手紙など個人の好きなものを部屋に飾っている。使い慣れたものを持ち込んでもらうように家族に依頼したり、お小遣いから購入の支援を行ったりして、個人の好みに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500302		
法人名	株式会社 トリア		
事業所名	グループホーム トリア吉野町		
所在地	岐阜県各務原市蘇原吉野町3丁目43番1		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoId=2190500302-00&ServiceId=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で地域との交流を大切にし健康管理を行いつつ、個人の意思を尊重して柔軟性のあるサービス提供に努めるという理念に基づき、職員の目に止まる所に貼り、利用者様一人一人にとって何がいいのか考え確認して業務を行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響により、外出を全くしていない状況のため、日常的な交流はできていないも、敷地内で少し外の空気を吸う際に、通りかかる方へのあいさつをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出等行っていないため、直接的な関わりを持っていない。前年度同様、高校・大学からの実習生を受け入れ、利用者様と近隣に住んでいる学生との間で、地元の話等に笑顔が増える機会を持てた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事の取り組みについて報告し、意見を頂き、その意見をもとにサービス向上を目指している。近年は、書面での開催となっているが、参加者の皆様からあたたかいご意見を多くいただき意見交換をすることで情報の共有ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、包括支援センターの担当者の方へ報告・相談を行い、指導や助言を頂いている。後見人制度の活用や、生活保護者の対応等の相談・助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様一人一人の行動観察で可能な力を見守ること、必要な介助を行う事、巡視体制を整えて拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフへの勉強会も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待について学習し、日頃スタッフ同士で抱えているケアの悩み等をその時々で共有することでスタッフのストレス緩和に努め、虐待につながらないように心掛けている。また、利用者様のストレスへの観察も日々行なっている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に補助人制度を利用されている利用者様がいるため、その際に学ぶことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもって説明し、質問等にも応対しながら理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見をいただいた時には、内容を記録や申し送りにて職員に周知している。苦情や外部への発信が必要な時については、運営推進会議の場を活用し報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には統括や管理者も出席し、職員一人一人の意見を聴くよう努めている。また、普段より職員一人一人に声をかけコミュニケーションを図り意見交換をしている。毎月担当を決めレクリエーションを展開し、職員の考えに委ねている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次昇給、資格所持者には資格手当を支給するなどその職員に応じて評価している。可能な範囲で、職員の働き方(休日等)に合わせて勤務の作成をするよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症の影響により、外部研修を控えている。今後リモート研修等検討していく。職員会議では、必要に応じて内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のリモートでの施設部会に参加し、同業者との交流や情報交換を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子を見に行き、入居確定時ご本人の施設生活への思いを確認するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階からご家族の思いに声に耳を傾け、納得・安心されるまで話し合いの機会を設け確認するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに耳を傾け、その方の現状に合ったサービス検討を各職種の意見も踏まえながら柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事（掃除や洗濯たたみ、食後の片づけ等）、またはカレンダーめくり等、利用者様ができる事を役割として提供し職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向をご家族へ伝えることで、可能な範囲でご家族で叶えられることはお願いをしている（買い物等）。また面会を可能な範囲で行ない、談話する機会を少しでも設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会がリモート面会のみとなっているが、ご家族と一緒にご友人が参加され再会を喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、空いた時間にリビングで談笑されている。また、声かけにて毎日、体操やレクリエーションを一緒にし利用者様同士がコミュニケーションを取れる様にしている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護にて亡くなられたご家族が、利用者様や職員の様子を気にして連絡をくださったり、他施設に変わられたご家族よりわからないこと等の問い合わせがあった際は親身に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いに耳を傾け、また、表情や行動等も観察している。必要に応じて、ご家族からも話を聞いたり情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報収集し、職員に周知している。また、その後の情報は申し送りや職員会議で報告し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付いたことや変化等を記録するようにし、それを読んで各スタッフ把握している。また、申し送りノートも活用し状況の変化など一人が得た情報であっても職員全員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの意見やご本人、ご家族の声をケアマネージャーが総括してその都度見直しを行ないながら介護計画を作成している。また、介護記録のキーワード欄も活用し、日ごろからケアプランの内容を把握しながらケアできるように介護記録を記入している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にキーワード欄をつくり、スタッフの気づきや利用者様の様子が少しでも見やすいものとなるよう努めて記入している。また、必要時は申し送りノートにも記入し職員が情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張理美容、病院受診や短時間の外出(現在は自粛中)など希望に合わせた支援を行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響により、近隣ケアの行事が開催されておらず参加ができておらず。近所のコンビニエンスストアへ買い物に行くことを楽しみにされている利用者様もみえる。(現在は実施しておらず。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、嘱託医による往診を受けているが、希望があれば他科の受診が出来るよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調管理、服薬状況、状態観察など医療面の情報や、その他気づいた点も報告し、看護師の判断で適切に受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームでの情報を書面にてお伝えし、また、地域医療連携室等に速やかに連絡を取り、現状の確認や退院前の調整を行っている。また、面会に行った際に経過を確認する等病院関係者ともコミュニケーションを取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で持病の症状等が悪化したり、変化のあった際は、早めの家族連絡を心掛けている。入居契約時に、終末期の対応についても説明を行なう。また、必要に応じて終末期に向けた方針を主治医・ご家族様・職員で話し合い、全職員に周知するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話近くに緊急時フローチャートを置き、すぐ確認できるようにしている。マニュアルを作成し事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会にて、お互い災害時は連絡を自治会長にとる体制が構築できた。スタッフ間で定期的な避難訓練(夜間も含む)や避難方法・手順の確認を行っている。今後、地域の方も交えた訓練実施を課題とする。備蓄も水分・食品も少しずつ備えている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、入職時のオリエンテーションにて周知し、適宜、職員会議の場で話し合い注意している。また、日頃から一人一人にあった声掛けをするよう職員へ周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日々の生活の中で自己決定できる事はして頂ける様促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等に考慮して、可能な範囲で希望に添う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴時の洋服等をご本人に選択していただいている。また、ピン止めやカチューシャ等お好みに合わせて使用されている。希望者に応じて出張理美容を依頼し利用したり、美容師免許を持ったスタッフがカット対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は取り分けをしていただいたり、おしぼりを作っていたり分擔して一緒に行かない、食後は食器を重ねたり、洗った食器を拭いてくださる等片づけも職員と一緒に協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材配達業者の立てたメニューを活用している。水分量が少ない時は、こまめに声かけをし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずはご本人様に行っていただき、その時の能力や状態、意欲に合わせ介助が必要な場合は介助にて行っている。		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、いつもより間隔が長かったり、行かれていない時は、必要に応じて声かけを行ない、誘導している。立位困難な方でも、二人介助でトイレ介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を勧めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し数日、排便がない場合は主治医・看護師に相談し対応している。また牛乳を飲んだり、体操にて運動するよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って、毎日や一日おき、一番風呂や夕食前等一人一人に合わせて入浴していただいている。入浴が苦手な方も、ゆっくりお話をして安心して入浴していただける環境を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のほどよい活動をすすめ、夜間、良眠できるように促している。また、それぞれに就寝時間を決めてみえるため、それに合わせた就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、未薬防止のため、内服の薬の数等は把握し、服薬介助時はダブル・トリプルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じレクリエーションでも提供方法を工夫して行うよう心掛けている。また、ご家族様の協力もあり、レク用品等を活用して楽しめる時間を提供することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩、喫茶店など希望に合わせて外へ出る機会を少しずつ作っている。(現在はコロナウイルス感染症の影響により実施せず)ご家族が亡くなられた利用者様と職員で1泊旅行へ出かけたりもしている。(以前)		

グループホームトリア吉野町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、買い物に出かけた際は、職員が所持し会計している。自己にて払える方には、その時だけ財布をお渡しし、そこから支払っていただく。(現在は、実施しておらず)スタッフが代行で、買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればご家族様に電話をしご本人様と話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りをして季節感を楽しんでもらっている。また定期的な換気を行いながら、外の空気を感じることでコミュニケーションをとり季節への関心を持っていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、そこでのんびり過ごしたり、食事以外はリビングの椅子に自由に座り、そこで集まっている方同士で一緒に談話し過ごせる空間ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から可能な範囲で使い慣れたものを持ってきていただき、過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がその方の心身状態を把握し、できることを小さなことからできるように環境を整えるように努めている。安全に事故なく日常動作が送れるよう見守っている。		